

平成 30 年度

事業所名 : グループホームひだまり

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370400376		
法人名	社会福祉法人 美楽会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	岩手県奥州市水沢区羽田町字久保37番地		
自己評価作成日	平成30年10月3日	評価結果市町村受理日	平成31年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detai_1_2017_022_kani_tru&li_gyosyoCd=0370400376-00&PrEfCd=03&VerSjOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年10月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

畑を作っており、種まきから収穫までを一緒に楽しみ、収穫した野菜はその都度食事で提供している。ミニイベントを沢山企画し、喜んでいただいている。ドライブの機会を多くもち、気分転換を図っている。地域行事に積極的に参加し、理解・協力いただけるよう努めている。認知症の進行・筋力低下の予防のため、レク活動に力を入れている。入居者様のより多くの笑顔を引き出せるよう、職員も笑顔での対応に心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東北新幹線水沢江刺駅や南部鉄道の鋳物工場と地区センターが近くにある田園地帯が広がる地域に、17年前に開設された事業所である。隣接して系列のデイサービスやグループホームひだまり2、サービス付高齢者向け住宅などがある。「健康寿命への心ある支援」を理念とし「軽視しない」「叱らない」「否定しない」「拘束しない」のホーム4原則をもとに介護を実践している。一昨年から「利用者の身体機能の低下防止と活気ある生活により、利用者の表情が豊かになり、生きがいづくりにつなげる」ことを目指し、レクリエーションの強化が続けられ、歌やゲーム等、いきいきと行われ明るい笑顔、活気があり、睡眠も確保されるようになっている。職員全員が笑顔で声掛けすることを申し合わせながら熱心に取り組んでいる。地域の行事などへ積極的に参加し関わることで、地域の協力が得られ、ホームへの理解が深まってきている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

[評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会]

平成 30 年度

事業所名 : グループホームひだまり

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・基本方針は、目につきやすい場所に掲示し、常に意識し取り組めるよう心がけている。全体ケア会議での唱和については、人員不足等により最近は出来ていない。	「健康寿命への心ある支援」の法人理念のもとに、5項目の基本方針と「軽視しない」「叱らない」「否定しない」「拘束しない」のホーム4原則を掲げ実践するよう心がけている。理念と基本方針を掲示し全体会議で振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板により地域の情報を得たり、ひだまり通信を回覧することにより、日頃の様子のお知らせや行事への参加・協力依頼をしている。自治会に加入しており、地域行事に積極的に参加している。	自治会に加入し管理者は毎年総会に参加し、事業所の「ひだまり通信」の回覧も行っている。地域の花壇づくり、グラウンドの草取り、小学校との交流、いきいきサロンへの参加と地域との交流が多い。9月の末には地域交流秋祭りをひだまり駐車場で開催し、ボランティアによる豚汁提供、ゲームなどを企画した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加したり、逆に施設行事に参加いただくことにより、理解を深めていただけるよう努めている。今年度は地域花壇の花植え・シルバーフェスティバルに参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状を報告・相談し助言をいただく他、地域の情報をいただいている。災害対策については、議題として取り上げよく話し合っている他、居室の蛇口交換・雪止の設置につながる。	会議では利用者の状況や行事を報告し、委員からは災害時の避難場所、防災ラジオ、自然災害対策の見直しなど活発に意見交換している、今年度は居室の水道蛇口の交換や屋根の雪止め設置による安全確保等の提言を頂き改善することができた。	テーマを定め駐在所・消防署・小学校・ボランティア等、地域の方に講師をお願いしながら、系列のひだまり2との合同開催を含め、よりよい会議をめざしたいとされている。今後のさらなる具体的な取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	問題・課題が生じた場合には、市に相談・確認をし対応している。包括支援センター職員が運営推進委員になっているため、会議の場で情報・アドバイスをいただいている。	申請書類や災害時の避難計画、事故報告等で相談に出向き、助言や指導を受けている。最近では防災ラジオ購入の相談のため出向いた。運営推進委員でもあり、地域包括支援センターとの連携の機会が多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム4原則「軽視しない」「叱らない」「否定しない」「拘束しない」に則り、本人の思いを尊重し、安心・安全に過ごしていただけるよう努めている。	利用者が安心して過ごせる環境づくりとして、ホーム4原則をサービスの特色としている。法人主催の虐待や身体拘束に関する研修会に参加させ、全体会議で復命研修を実施し、日頃の関わりを振り返りながら、拘束しないケアに取り組んでいる。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対し担当制をとることにより、入居者の変化等にいち早く気付けるよう努めている。入浴時の身体チェックを重視している。介護者のストレスが要因で、言葉の暴力等にならぬよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がいるため、実際に対応しながら学んでいる。緊急入院等の場合、弁護士はどこまでの対応をしていただけるのか確認した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	わかりやすい説明や、不安・疑問点について尋ねやすい雰囲気づくりに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見については面会時やケアプラン更新時に積極的に話を伺い、入居者については常に耳を傾け職員間で話し合い対応している。市より介護相談員が年2回来所され、入居者の生の声を聴き、報告いただいている。	家族から屋根の雪止めの設置について意見をいただいたり、利用者から座る場所によりテレビが見えないと話されたため、雪止めの設置とテレビを壁掛け式に位置を修正し、喜ばれた。市から年2回介護相談員が派遣され一緒に情報共有し、利用者からはすっきりした、楽しかったなどの声があがっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	連絡ノート・申し送り時など日常的に気付いたことはその都度話し合い、早期に反映できるように努めている。全体ケア会議では、全員の考えを確認している。管理者と職員が、日常的に意見交換できている。	職員が笑顔でいないと利用者も笑顔になれないので、日頃の気づきを大切に、毎月開催する全体ケア会議で、入浴順番の工夫や入浴のさせ方、シルバーカーの利用など、具体的な検討を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。職員個々の状況については、月2回行われている管理者会議の場で報告することにより把握いただいている。現在、勤務体制について検討いただいている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会をできるだけ多く持てるよう努めている。全員が年に1回は研修に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やGH定例会に参加することにより、他施設職員との交流・学びの機会を得ている。今年度は職員の交換研修を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族等からの情報収集に努め、その情報を基に本人よりゆっくりと話を聞き、少しでも不安を和らげることができるよう努めている。孤独感を感じぬよう寄り添う時間を多く持つよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションを積極的にとることにより、早期に信頼関係を築けるよう努めている。面会時には、日頃の様子をお伝えしながら家族の状況・要望等をお聞きし、入居後のサービス計画に取り入れ、統一したケアに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や居宅ケアマネとの連絡を密にとることにより情報収集にし、ニーズの把握と対応に努めている。必要な場合には、他のサービスを含め提案・相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	体験談等をお聞きし、日々の生活に活かせるよう努めている。又、本人の負担にならぬよう配慮しながら出来ること・好きなことを積極的に行っていただいている。職員と一緒に行動することにより、やりがいを感じ喜んでいただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には相互の情報共有に努め、最善の方法を相談し次のステップへつながらよう努めている。協力医以外への通院は、家族にお願いしている。家族より、体操・口腔体操指導の申し出があり行っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	羽田地区については、地域の理容店による訪問散髪や地域行事への参加など、地元の方とのふれあいの場を大切にしている。他の方については、自宅付近へのドライブや地元での敬老会参加を検討している。	隣接しているデイサービスと利用者や職員とともに交流が多く、馴染みの関係となっている。理髪店や家族との墓参りや外食等関わりを保っている。自宅周辺のドライブに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、レク等を楽しめる雰囲気づくりや、席替えによる食事席等の心地よい居場所づくりに努めている。洗濯たみなど、自然に会話が弾み仲間づくりにつながる場の設定等に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの場合が入院からの退居であり、退居までに一定の期間を要するため、その間に必要と思われるアドバイスや相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートより情報を把握した上で、さりげない一言を大切に傾聴するよう努め、得た情報は共有し対応できるよう努めている。定期的なアセスメントと毎月のモニタリングを行っている。	居室担当職員をおき、利用者のことばや行動をありのままに記録し、職員間で情報共有することになっている。利用者とゆっくり向き合える、入浴時間や夜間の居室での会話の時間を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・関係者からの情報収集に努め、フェイスシートを作成している。フェイスシートにより情報を共有することができ、コミュニケーションをとる上で役立てている。更に、昔話を聞く機会を設け把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録による現状の把握とともに、日々の表情を大切に、その日の状態をくみ取り、状態に合わせた声掛け・対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、定期的なアセスメントと毎月のモニタリングを行い、家族の意向を確認している。それを基に全体ケア会議で検討し作成している。	居室担当が利用者の記録や日誌をもとに、計画作成担当者やアセスメントとモニタリングを行い、家族の意見も入れて計画案を作成し、それを全体ケア会議で検討している。状態等が変化した場合には、柔軟に見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には、日々の気づき・経過を重視して記録するよう努めている。そうすることにより、今必要な支援がわかりやすく、計画・実践へとつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医以外への受診は家族対応としているが、状況により事業所が行っている。日用品についても家族対応が基本だが、場合により事業所が対応している。他施設申し込みのための連絡・日程等のセッティングを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駐在所に写真入りリストを提出。地域の行事に積極的に参加。地域の理髪店の訪問散髪。町内会の花壇作り・いきいきサロン参加。食生活改善推進委員会の協力。シルバー人材利用による通院。ひだまり秋祭り。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の訪問診察時に状態報告・指示を受けている。協力医への受診は事業所対応・以外の受診は家族対応としている。その場合必要な情報記録を家族に持参していただく他、初診時は可能な限り職員も同行するよう努めている。	協力医による訪問診療を週1回行っている。他のかかりつけ医の場合は、事業所作成の医療伝達シートを携えた家族が同行し、適切な医療を受けられるよう支援している。家族から診察結果を伺い、情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に報告・相談・指示を受けている他、日中・夜間を通じて変化があった場合は、電話にて報告し指示を仰いでいる。協力医との関係もスムーズに行えるようアドバイスいただいている。医療伝達シートを作り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーを作成し提出している他、入院時に付き添い細かい点についても情報提供するよう努めている。入院後については地域連携室と情報交換し、家族とは面会時や電話にて確認・相談し、不安の軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に支援の限界の目途については説明し、理解いただいている。状況により区分変更・他施設申し込みの提案をし、家族と相談・確認しながら進めている。協力医・訪問看護師との連携を密にし、アドバイスをいただいている。	入居時に「重度化及び看取り介護に関する指針」により、説明し同意を得ている。入浴できない、きざみ食まで、立位保持が無理など、支援の限界に至った場合には、協力医や訪問看護師と相談し、利用者や家族の確認をとりながら、他の施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医療機関・訪問看護師と相談し「緊急時対応マニュアル」を作成し、それに沿った対応をしている。定期的な訓練は行っていないが、日中・夜間を通じて看護師に報告し、指示を仰ぎ対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回地域の協力を仰ぎながら、避難訓練を実施している(1回は消防立会) 停電時に備えて、年1回発電機の操作訓練を行っている。水害時の避難訓練を昨年より追加している。	火災の避難訓練は夜間想定1回を含め年2回、水害の避難訓練は年1回実施している。特に水害の危険区域なので、法人系列の特別養護老人ホームを避難先としている。今年度台風接近に伴い避難準備情報が発令され、避難所に避難した。水や食料の備蓄も整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護4原則を基に親しみやすい声掛けを心がけているが、慣れ合いの言葉掛けにならぬよう意識している。但し、トイレでの確認はプライバシーを損ねていると思われるが、清潔と健康状態を知る上では必須の為、声掛けしながら行っている。	職員信条の一つ「言葉づかいは、柔らかく丁寧」のほかホーム4原則「否定しない」「軽視しない」等に沿って「さんづけ」で声掛けし、また頼みごと等がある場合には、方言の「～してけらい」と話しかけるなど、暖かい心をもって対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと聞く態勢をとり傾聴するよう心がけている。自己決定が難しい方に対しては、選択していただけるよう準備するなど、意思表示しやすい工夫を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	多くの場合日課の遂行が優先的になっているが、少しでも本人の希望に添えるよう、柔軟な対応を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに興味を持っていただけるよう、着用されている服の色・デザイン・素材など、喜んでいただけるお声掛けを心がけている。ひげ・爪・髪等の整容に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜を献立に活かし、収穫の喜びを感じながら召し上がっていただいている。おやつ作りは入居者様に主で作っていただき楽しまれている。片付けは、負担にならぬよう配慮しながら一緒に行っていただいている。	夕食のおかずは外注しているが、朝・昼は職員が作り、スーパーの広告を見て何気なく発した好みの旬の魚や畑で収穫した野菜を取り入れている。利用者には食器やテーブル拭き、配膳、食器拭きをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃の摂取量を把握し、減少が見られた場合は食事・水分チェック表を活用し医師に相談し対応している。就寝前・起床時・トイレ起床時の水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っていただいている。声掛け・見守り・介助と、状態に合わせて行っている。入れ歯の方については、夜間入れ歯洗浄剤使用。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により個々の排泄パターンを把握し、それを基に声掛け・誘導を行っている。車いすの方もセンサーを使用により、夜間帯もトイレで排泄できるよう支援している。2名の方が、リハビリパンツ使用から布パンツ使用になられた。	トイレ誘導の声がけする方もいるが、殆どの利用者は自らトイレへ向かい自立度が高い。夜間は全員トイレを使用し、ポータブルトイレ使用者はいない。リハビリパンツから布パンツに改善された方は3人いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医・訪問看護師と相談し下剤等の対応を取りながら、排便のリズムづくりに努めている。積極的に野菜・ヨーグルトを摂取いただいたり、就寝前・起床時の水分補給に努めている。排便を促す体操・腹部マッサージも取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日・時間帯はほぼ決まっているが、入浴順や好みの温度など、出来る限りの対応に努めている。8月より、入浴拒否者の翌日入浴可となる。入浴剤を使用するなど、喜んでいただけるよう努めている。	浴室は広く、浴槽は三方向から介助でき、ゆったりと入れる。入浴はその日の利用者の体調を見て、足浴や清拭に切り替えるなど、柔軟に対応している。週3回、午後の時間帯に職員2人が介助し、利用者は会話しながら楽しい時間を過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠・浅眠・昼夜逆転予防の為、なるべく20時頃に就寝されるよう声掛けしている。就寝前は、ホールでテレビを観ながらの談笑や、水分補給しながらゆっくりと過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に目を通し把握に努めている。変更内容は申し送り・申し送りノート等により情報を得ており、状態観察・記録に努め、必要により看護師・主治医に報告し指示を受けている。薬は毎食後手渡しし、飲み込むところまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状態を見極め、得意分野について役割を担当していただき、出来ることへの喜びを感じていただけるよう努めている。レク・ドライブ・家庭菜園・イベント等、季節に合った行事を計画し、楽しみながら生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望により外に出られる方には、職員が付き添い対応(散歩・野菜収穫・水かけ等)している。家族と外出される方は3割程であるため、ドライブ等の機会を多く持ち、地域行事に積極的に参加している。誕生月に個別に買い物に出かけ、喜んでいただいている。	地域の高齢者の交流の場であるいきいきサロンへの参加や、鑄物祭り等に出かけている。野菜畑を上手に活用し、散歩しながら草取りや水かけ・収穫作業を行っている。花見や紅葉狩り等ドライブの機会も多い。誕生月の百円ショップでの買い物が好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金対応をしており通常お金は所持されていないが、本人の強い希望により所持を認めていた場合がある。誕生月の買い物では、レジで支払いをしていただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、家族の了承を得た上でお話しができるよう支援している。携帯電話を使用されている方は、自由に連絡されているが、使い方等の支援が必要な場合は対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理・整頓・清潔に心がけている。ホールには作品を展示したり季節の物を取り入れ、作る喜びや季節を感じて頂けるよう工夫している。テラスが設置され、喜んで使用されている。温度・湿度調整や、ホールのテレビ・テーブル等の配置換えを行い、過ごしやすい環境作りに努めている。	床暖房のホールには天窓から程良い採光があり、バリアフリーで音楽が流れている。日向ぼっこできるテラスも備えており、収穫したサツマイモが干してある。テレビを壁掛けにすることで、ホール中央部分のスペースを広くとり毎日のレクに活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	活動時には参加を呼び掛けるが、基本的には自由に過ごしていただいている。テラスでは独りで・仲間と、その時々状況により自由に活用いただいている。テーブル・テレビ・ソファの配置換え、テーブル席の席替え等を行い工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをお持ちいただき、安心して生活していただけるよう努めている。仏壇を持参され、朝晩手を合わせておられる方もいる。家族来所時には一緒に写真を撮り、その写真を部屋に飾ることにより安心していただいている。	居室は床暖で、ベッドやクローゼット、扇風機、洗面台が備え付けられており、電動ベッドをレンタルで持ち込んでいる人もいる。持ち込んだタンスにわかりやすく張り紙し、小さな仏壇や家族の写真などを置いて自分の部屋らしく工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室・自席が分かるよう、ネームプレートを付けている。状況によりベッドの位置や向きを変える・歩行車使用の検討など、安全かつ自立した生活に努めている。センサー利用により、転倒予防に努めている。居室洗面台の蛇口の変更・交換。		